



公務員よ いざ まちへ。 ～官民連携まちづくりシンポジウム～

群馬県庁官民連携まちづくりプロジェクトチーム
(群馬県県土整備部都市計画課)

■ はじめに

群馬県では、「官民連携まちづくり」を推進しており、R3年度から、情報発信の1つとして、官民連携まちづくりシンポジウムを開催しています。

今年度は、「公務員よ いざ まちへ。」というテーマを設定し、実際に前橋市で活躍している前橋市役所職員の田中隆太氏にご講演いただき、後半では、田中氏と前橋のまちなかで活動しているIlemo design studio主宰の木暮勇斗氏と一緒にトークセッションを行いました。

■ 官民連携まちづくりプロジェクトチームの活動報告

シンポジウムでは、群馬県庁官民連携まちづくりプロジェクトチーム(以下、PJチーム)の活動状況も報告させていただきました。

1. しんとうワイナリークリスマスマルシェ

榛東村の地場産業であるしんとうワイナリーを応援し、地域を盛り上げたいという想いを持った榛東村商工会職員から、公園を使ったマルシェを企画するにあたり、公園の使い方、マルシェの開催についてノウハウを教えて欲しいとの相談がありました。9月に現地視察を行い、12月にマルシェを開催するという短期決戦でした。

実施のポイントとしては、

- ・パブリックマインドを持つ民間プレイヤーを見つけよう！
→商工会職員が、榛東村出身のプレイヤーを早々に発見し、イメージを共有できた。
- ・民地で小さく・スピーディにやりましょう！
→公園の利用は、ハードルが高かったため、ワイナリーの敷地に決定。

などが挙げられ、スピード感のあるマルシェが実現しました。当日は、約550名の方にご来場いただき、新作ワインも大変好評でした。

2. 県立公園アイ・ディー・エー群馬の森の活用

当公園のネーミングライツスポンサー企業である(株)アイ・ディー・エーから、群馬の森の魅力の再確認とイメージアップを図りたいという思いを受けて、このプロジェクトは始まりました。

PJチームのメンバーが公園の管理担当事務所に異動になったことから、内部の調整をサポートし、(株)アイ・ディー・エーは、企画・マンパワーと資金の提供を担当しました。まずはできることからやってみよう!ということで、10月に星空観察会、12月にGUNMORI BASEを実施しました。当日は、様々な世代の方にご来場いただき、普段では見ることのできない新たな一面を発見することができました。

官民連携まちづくり シンポジウム

公務員よ いざ まちへ。

日時：令和5年1月27日(金) 14:00～16:00
場所：群馬県庁32階 NETSUGEN (13:30受付開始)

【協賛/協力】群馬県官民連携まちづくりプロジェクトチーム (事務局:群馬県庁) TEL: 027-224-2445
Mail: machi-kusaku@pref.gunma.lg.jp

【主催】群馬県庁 官民連携まちづくりプロジェクトチーム
【共催】群馬県県土整備部都市計画課
【協賛】Ilemo design studio
【協力】前橋市役所 田中 隆太 氏
Ilemo design studio 木暮 勇斗 氏



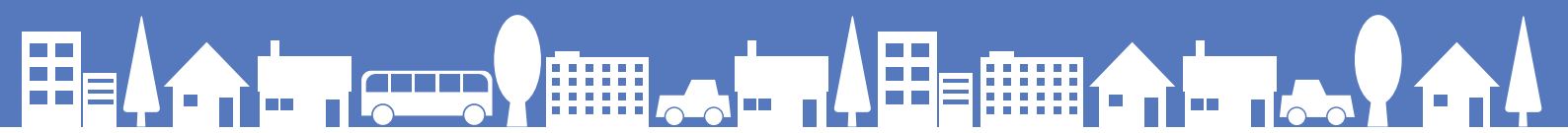
しんとうワイナリークリスマスマルシェ



群馬の森での星空観察会

■ まちのアシスタント「マチスタント」

登壇いただいた田中氏は、市街地整備課在籍時に、民間主体のまちづくりを推進するための指針であるアーバンデザイン策定や前橋市版リノベーションまちづくり、ミズベリングなどの官民連携まちづくりに取り組まれ、



現在は、にぎわい商業課において、“まちのアシスタント「マチスタント」”として、遊休不動産調査やまち歩き案内、開業支援等を行っています。

プライベートにおいては、フリマイベントへの出店、前橋NO密部、たなか菜園、BentenaSHOPなどに関わっており、仕事ではない立場で街の人たちと出会う方が、密なコミュニケーションが取れ、新たな業務に繋がることもあるとのことでした。

活動する中では、ひとりでやるのがとても大事で、大勢の一人ではなく、個人として関わる方が自分のことを知ってもらえるようになる。また、あくまでも自分が楽しむためにまちにいるので、「まちづくり」という言葉を使わないようにしているそうです。

日頃から使っていたリノベーションまちづくりという呼び方に違和感を覚え、今の活動内容にあったネーミングにしようということで、「マチスタント」が誕生し、現在の活動に繋がっていると、たくさんの魅力的な事例とともにお話をいただきました。



～マチスタントのロゴマークと田中氏～

■ トークセッション

後半では、県内自治体職員から「官民連携って何から始めたら良いの？民間の人とどうやって繋がったら良いか分からない。」という声が聞こえてくることから、ポイント的なところを探ってみました。

Q：一緒にプロジェクトを始めたきっかけは？

A：木暮さんが関わっていた丸山ビルの閉店パーティーに、田中さんが来たことがきっかけで、最初は、公務員とは知らずに接していた。田中さんは、木暮さんの活動を知り面白いと感じていて、話をするようになった。木暮さんの物件探しと田中さんの空き家調査がマッチングして、最初の事業に繋がった。

Q：民間の人にどのようにアプローチしたらいいか。

A：気になる人がいたら会いに行くことが大事！

Q：民間から見た公務員の印象は？

A：公務員という肩書は気にしていない。前のめりに関わりたいと思ってくれる気持ちが嬉しい。

Q：行政が公表している指針など意識するか。

A：前橋市アーバンデザインについては、公表時からまち全体の指針に熱量を感じ興味を持ち始めた。

このほかにも、話す場所も大事であり、静かな会議室ではなく、公務員こそまちに出ていく方が良い意見が出るというアドバイスをいただきました。



木暮 勇斗さん



田中 隆太さん



～トークセッションの様子～



■ おわりに

官民連携まちづくりチームでは、来年度から、アウトプット編を始めます。アウトプット編は、市町村のまちづくり実践をちょっとお手伝いする企画です。興味がある方がいましたら、連絡お待ちしております。

